

### 硬式野球部

# 5年ぶり「明治神宮野球大会」制覇

体育会硬式野球部は11月16日、第47回明治神宮野球大会決勝で桜美林大を5-2で下し、5年ぶり6度目の優勝を果たした。

明治神宮野球大会は、全国の大学野球連盟から選ばれた代表校11校がトーナメント方式で戦う。明大は東京六大学野球連盟代表として出場し、2回戦は関西大に4-1、準決勝は上武大に3-0で勝利し、決勝に進出した。

決勝では、初回に2点を先制されるも、5回、四球や連打で一挙に逆転。投げては、柳裕也主将(政経4)一星知弥投手(政経4)の継投で、桜美林大打線を抑え、見事、秋の大学日本一に輝いた。

試合後のインタビューで柳主将は「明日からこのチームで野球ができなくなると思うと寂しい」と涙ながらにチームメイトに感謝。続けて、「星とは1年生の頃から切磋琢磨してきたので、これからも良いライバルでいたい」と将来の飛躍を誓った。



善波達也監督を胴上げし、喜びと感謝を表現する明大ナイン



## プロ野球「熱狂」の経営科学 —ファン心理とスポーツビジネス

水野 誠ほか 編著  
東京大学出版会  
5,000円+税



本書は3つの視点から楽しむことができる。1つはプロ野球ファンとしてデータ分析を楽しむ視点である。映画『マネーボール』で有名になったセイバーメトリクスは選手の成績を対象としているが、本書はプロ野球ファンの動向や心理、球団の経営を対象としており、より社会科学的なデータ分析となっている。

2つめはマーケティング論や社会心理学、経営学や会計学の応用分析として楽しむ視点である。第1部はマーケティング論で巨人・阪神・広島ファンの違いを浮き彫りにする。第2部は社会心理学によりファン心理のメカニズムを解き明かす。第3部は、選手データから選手の人生像を明らかにする第6章、シミュレーション分析によりチームのパフォーマンスを評価する第7章、貸借対照表から球団の経営状態を見る第8章から成り、経営学の視点に基づいている。

3つめに、統計学的手法の応用として楽しむ視点である。様々な分野の研究者が集まっていることから、本書で採用されている分析手法は多岐に渡る。いずれも興味深い統計学的分析となっている。

畑農 鋭矢・商学部教授  
(編著者も商学部教授)

## 戦後日本首相の外交思想 —吉田茂から小泉純一郎まで

竹内 桂ほか 著  
ミネルヴァ書房  
4,500円+税



日本国憲法73条は内閣が担う職務内容として、「外交関係を処理すること」を挙げている。内閣を代表する首相が外交に及ぼす影響力は、戦前に比べて格段に高まったのである。本書はその認識の下、吉田茂から小泉純一郎までの主要な首相17人の外交思想を論じている。本学が輩出した三木武夫・村山富市両首相についても、それぞれ一章ずつが割かれている(竹内桂および薬師寺克行がそれぞれ執筆)。

三木の外交思想の基軸は日米関係であった。フォード大統領と会談して親交を深めたとの確信が、三木によるロッキード事件の徹底究明を後押しした。また、日中平和友好条約の締結に骨を折り、仏ランブイエでの第1回サミットでは南北問題の是正を訴えた。これらはもっと評価されるべきだ。一方、村山の外交思想は戦後50年談話に明らかである。「独善的ナショナリズム」を戒めたこの「日本外交にとっての大きな資産」は、本学の誇りでもある。1995年1月の日米首脳会談で村山が在沖米軍基地の返還を求めたことは、後の普天間基地返還合意の伏線になった。

西川伸一・政治経済学部教授  
(著者は政治経済学部兼任講師)



第559回

